

第 章 河川横断施設の改善及び魚道整備における基本理念

-1 河川の自然環境を知る

1. 河川を知る

魚の遡上・分布や生活には、河川の形状、河床材の状況、水温・水質及び流況等が深く関与する。このため、事業に際しては水田や用排水路等の周辺水域も含める等、流域の視点に立ちこれら自然環境の現況と変遷や魚の分布の阻害要因となる河川横断施設等を把握し、環境改善の必要性及び改善方針の検討に資する。

【河川は生きもの】

我々は目にみえる流水、または堤防で囲まれた河道の範囲、すなわち、ある瞬間の姿を河川の姿と考えがちであるが、流量は常に変動し、土砂は常に移動し、河床の形状も時間の経過とともに変化している。このように河川は絶えずその姿が変動していることを十分念頭に置くべきである。

2. 魚を知る

河川には様々な生活史をもった魚が生息しているため、事業実施に際しては、魚の生活が変化に富むことを認識し、当該河川における魚の生活史や分布・遡上範囲及びその変遷を把握する。

